



今月のお客様

渡辺玲子さん

ヴァイオリン

演奏家として深い音楽表現を追究しながら

大学で「音楽の聴き方」をレクチャー

東京シテイ・フィルでチャイコフスキーを演奏



● バッハの音楽はコアな存在

宮本 演奏ツアーなどで移動の多い生活を送っていらっしゃると思いますが、生活拠点にしているのはどちらなんですか。

渡辺 東京とニューヨークにアパートがありますけれど、この8年ほどは秋田にある国際教養大学で教えていますので、毎年2〜3か月はそこのゲストルームに滞在しているんです。ですからそれぞれに3か月くらいおり、残りはコンサートなどで訪れた先でということになりますね。

宮本 宿泊先のホテルで練習されるときは、周囲の部屋に気を遣ったりして大変じゃないですか。

渡辺 私は、ほとんどそういった苦情をいただいたことがないんです。

宮本 それは幸せですね。僕は、いつ苦情の電話がくるかとひやひやしながら練習していましたから。3月に東京シテイ・フィルでチャイコフスキーの協奏曲をお弾きになりますか、そういうときも日頃の練習というのは、やはり音階をさらうところから始めるんですか。

Fumiaki Miyamoto

東京生まれ。18歳でドイツに留学後、ケルン放送交響楽団やサイトウ・キネン・オーケストラなどの首席オーボエ奏者を歴任し、ソリストとしても活躍。2007年にオーボエ演奏活動を終えた後も、自らプロデュースするオーケストラMAP'Sを主宰し指揮活動を始める。12年4月より東京シテイ・フィルハーモニック管弦楽団の初代音楽監督に就任する予定である。東京音楽大学教授。

渡辺 軽くやりますけれど、私は早めに切り上げてバッハの曲を弾いたりしちゃってます。

宮本 チャイコフスキーを演奏するときでも、バッハを。

渡辺 音楽をやっている人間にとつては、技術的にも精神的にもコアな存在ですし、まず自分を落ち着かせるためにも必要な時間ですね。特に昨年は震災の後、コンサートがキャンセルになったり余震がたくさんあったりしたとき、弾いているとずいぶん気持ちが落ち着きましたから、あらためてバッハの力を感じました。高校生を無料招待してレクチャー・コンサートをしたときも、いろいろな曲を演奏する中でバッハの《シャコンヌ》に対する彼らの集中力はすごかったですから、人をうさせる魅力があるんでしょうね。

● 大学で音楽の聴き方を教える

宮本 バッハの曲は、われわれ音楽家を求道者にしてくれる作品ですし、あの世界観が聴き手との壁をなくしてくれませんか。

渡辺 今年は「Noism」というモダン・バレエのカンパニーと共演して、バッハを演奏するという試みにも挑戦しますけれど、音楽の精神世界と身体の動きがどう結びつくのか、とても興味があるんです。

宮本 ところで秋田で教えていらっしゃるということですが、どういうことをされているんでしょうか。

渡辺 演奏も交えながら音楽全般のこと、特に教養としての音楽の聴き方を教えています。バーンスタインの「ヤング・ピープルス・コンサート」という番組が大好きなんですけれど、ああいった音楽的に妥協しない内容のレクチャーをしながら、初めてクラシック音楽に接するという学生でも魅力を感じてもらいたいですね。ヴァイナルディの《四季》を聴きながら、ソネットの内容と和



Reiko Watanabe

東京生まれ。第50回日本音楽コンクールにおいて最年少優勝(15歳)。1984年にヴィオッティ、86年にバガニーニ両国際コンクールで最高位を受賞。85年から、ジュリアード音楽院に全額奨学生として留学し、学士と修士を取得。99年にはリンカーン・センターにおいてニューヨーク・リサイタル・デビューを果たした。このほか、ワシントンのケネディー・センターやラヴィニア音楽祭、イタリアのストレーサ音楽祭等に出演している。2005年、第35回エクソン・モービル音楽奨励賞受賞。04年から国際教養大学特任教授。

声との関係を分析したり、作曲家の方々にゲストで登場していただき、どうやって創造的に音楽を生み出しているのかを語っていただいたりするなど、とても幅広いんです。コンサートで聴衆が積極的に音楽へ参加することの大事さについても、教えていますよ。

渡辺 満足のいく演奏ができて、客席の空気が素晴らしいときには、とても幸福な気分になりますね。

● 音楽家はアスリートに近い？

宮本 演奏や教えていらっしゃるお仕事以外の時間は、どのように過ごしているんですか。

渡辺 自然の中に行きたくて好きで、山へハイキングに行ったりします。紅葉の季節は特に欠かせません。秋田へ行くようになってからは新緑の季節が楽しみです。ちよつと芽が出てきた頃に味わえる独特の美しさが毎年の楽しみです。畑で野菜を育てたりもしていますよ。

宮本 でしたら、食べるものにも気を遣っていらっしゃるんじゃないですか。

渡辺 特に摂生しているわけではありませんが、マクロビオテックのお店に行つて食事をすると、その日の

宮本 まったく同感ですね。音楽家はアスリートよりも柔らかくて、しなやかな筋肉をもっていると感じたことがあります。

渡辺 バランスのよい筋肉としっかりとした身体のコアが、いい音を生み出すために必要なんです。一流のスポーツ選手みたいに、自分専用の料理人とマッサージをしてくれるトレーナーが、いつも一緒にいてくれたら幸せなのに！

宮本 チーム渡辺、ですね。

(聞き手 オヤマダアツシ◎音楽ライター)

対談を終えて

お会いするのは初めてでしたが、ヴァイオリンという楽器に命を賭けているという印象があり、長く音楽をやっている人特有の、強い意志を感じました。でも、そこそが音楽家としてもっとも大切。客席との関係についていろいろ考えているなど、いい音楽が生まれる瞬間との出会いも大事にしているんじゃないかな。マッサージなど身体のメンテナンスについてうかがっていると、音楽で一緒にがんばっている戦友のような気がしてきました。

宮本文昭

公演情報

東京シテイフィルハーモニック管弦楽団 第257 回定期演奏会

3月16日(金) 19:00
東京オペラシティ

飯守泰次郎(指揮)
渡辺玲子(ヴァイオリン)
チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲
交響曲第2番、他

問い合わせ: ☎03-5624-4002

東京都交響楽団調布シリーズ No.13
ベスト・オブ・ベートーヴェン

3月6日(火) 19:00
調布市グリーンホール(東京)

宮本文昭(指揮)
小山美穂(ピアノ)
ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
交響曲第7番、他

問い合わせ: ☎03-3822-0727